



読者の皆さん、こんにちは。KEC ビジネススクールの平野純一です。私が診断士試験の指導にかかわってから、早10年以上になりました。この間、講義のほかにも、カウンセリングや学習相談の形で、多くの受験生とかかわってきました。

その中で1つ言えるのは、不合格を繰り返す受験生の多くが、絶対的な時間不足の場合を除き、程度の差こそあれ、「学習方法そのものに問題がある」という点で共通していることです。

そこで、今回の特集では「診断士試験の学習効率」にフォーカスします。読者の皆さんには、

- ①改善がしやすい
- ②効果が大きい
- ③多くの受験生が実行していない

—という診断士試験の効率的な学習法について、解説します。特に、学習を効率的に行うための科学的な基礎知識や具体的テクニックについて、私の指導経験と学術的な根拠に基づき、普遍的かつ有用な知識を提供します。

今回は全12ページとコンパクトにまとめました。これをしっかりと理解し、実践していただけるならば、皆さんの人生が変わるほどのインパクトがあるものと考えていますし、それを意識して執筆しました。

それでは、始めていきましょう。

1 効率的な学習の重要性についての認識

私の接してきた多くの受験生は当初、「効率的な学習」についての重要性の認識が低かった、またはなかったのが現実でした。個人的には、以下の2つの理由があるものと推測しています。

1つめは、単純に効率的な学習の重要性について今まで考える機会がなかったことです。人間は問題点の認識そのものができなければ、先には進めません。2つめは、成功体験があることです。診断士受験生には、優秀な学業を修め、ビジネスの最前線で成果を上げてきた方が少なくありません。そのために「診断士試験において効率的な学習が重要である」ことに気づかない方が多いように思われます。

このことから、多くの受験生が行動経済学における「正常性バイアス」に陥っていると考えられます。これは、自分にとって何らかの被害が予想される状況下にあっても、自分は大丈夫であると根拠なく思い込むことです。診断士試験において、どこか甘く見ている受験生が多いように感じます。

逆に、効率的な学習の重要性に気づきさえすれば、多くの受験生より一歩、リードできるといえます。

2 非効率な学習を続ける恐ろしさ

図表は、効率的に合格するために考慮すべき項目についてイメージしやすいよう、簡単な式の形で表現したものです。

図表 効率的に合格するための式

①学習時間×
②心身のコンディション状況×
③理解・記憶に関する工夫+
④実践力

筆者作成

上記の式のポイントは、①～③についてはそれぞれの関係が+ではなく×であることです。

まず当たり前ですが、①の学習時間がゼロであれば当然、それ以降はすべてゼロになります。

②の心身のコンディション状況も同様です。睡眠に襲われ半分眠りながら学習しているようでは、①のようにゼロとはいわないまでも、以降の成果にマイナスの影響を与えることになります。

③の理解・記憶に関する工夫が、本特集で大きく扱う内容となります。詳しくは後述します。

④の実践力については、本番でミスをせず実力を出し切るための力と考えてください。1次試験においても重要ですが、作業が複雑・難解で時間に追われる2次試験では、特に重要な力です。

さて、①、②は学習以前の基本的なことですが、③の工夫をいかにするかで、学習の成果に乗算的な成果をもたらすと考えます。たとえ工夫がゼロでも、一定の成果にはつながるでしょう。ただし、学習メソッドの巧拙に応じて、得られる成果の大きさは異なってきます。10時間より100時間、100時間より1,000時間と学習時間が長くなればなるほど、その差は拡大していくでしょう。つまり、非効率な学習を続けていけば、無駄な時間を拡大させることになるわけです。

ここで、非効率な学習を長時間続けるのは、「人生の時間の無駄使い」であることを、今一度しっかりと認識してください。本来なら、自己啓発はもちろん、健康維持のための運動・休息や趣味、家族・友人との団欒、あるいは副業など、有意義に使えたはずの時間を「非効率な学習が奪う」ことになるのです。

さらに言えば、たとえ非効率でも「合格」という目的を達成できればまだ良いのですが、難関試験においては莫大な時間を単に浪費して終わるだけの結果にもなりかねません。

時間は貴重です。しつこいようですが、非効率な学習を続けることの恐ろしさを今一度認識してください。

3 本特集の概要

本特集では、③をメインに解説しますが、②についても扱います。

第2章では、「記憶」をテーマに、4つの視点から有効なメソッドを紹介します。試験合格においては記憶がすべてではありませんが、「記憶なくして合格なし」であることもまた事実です。

第3章では、多くの不合格者が陥りがちな「まずい演習のやり方」をテーマに、その改善策について心理学のメタ認知の観点から解説します。

また、現在の私の研究テーマの1つでもある効率的な外国語学習法からの例を各所で用います。ほぼ、すべての読者の皆さんは過去に英語学習の経験があるため、身近な例としてイメージしやすいのではないかと考えます。

難関資格試験の多くは1年に1回の「一発勝負」。そして、人生を大きく変える力を持ちますが、通常、合格までに大変な努力を要します。あなたの貴重な人生の時間を浪費することなく、効率的に合格するための知識を本特集で身につけてください。